

子どもが主役の【多様な学び】  
福知山市型多様な学びアクションプラン

子ども政策室  
学校教育課

令和5年3月  
【令和5年12月改訂】

## 教育機会確保法の趣旨をふまえ、誰ひとり取り残さず、子どもたちが社会的に自立する力を、ともに育む

- ❖ 早期把握・早期リーチ・早期アクセスの実現
- ❖ それぞれの子どもの状況に対応した多層的な選択肢 ⇒ まずは3年間のモデル事業として実施
- ❖ 不登校状態に対する負のイメージの転換

### 1 相談・対応力の充実強化、実態把握の深化

- 各相談対応機関（学校・教委・教育相談室・子ども政策室等）の連携強化、相談情報の統一フォーマット化、ケース会議の開催
- 多様な学び推進連携チームの機能拡充
- 京都教育大学と連携し、子どもの育ち・学び・生活及び市事業の効果測定等に関する共同研究を実施

### 2 予防的視点での早期対応・早期連携

- 乳幼児健診及び4歳児クラス健診の結果を踏まえた、就学前の発達課題への個々に合った適切な対応、早期連携の充実・強化
- 就学前からの支援情報等の学校現場への引き継ぎ方策及びアセスメントシート等の検討・試行
- 就学期以降の子どもに対する教育及び保健福祉の専門家からなる共通アセスメントの場の設置

### 3 多様な学び、安心できる居場所の設置

- 別室登校や放課後登校は可能な子ども向けに、学校にアナザークラス（もうひとつの教室：A組）を配置し、さらにランチスクール（学びの多様化学校（分教室型）：B組）の設置を研究
- 学校に拒否感のある、あるいは自宅から出にくい子ども向けに、学びや社会体験の機会となる居場所（公設フリースクール）を設置

### 4 学校対応や教育支援のさらなる充実

- 不登校になりそうな子どもの早期発見や校外関係機関との連携を図る校内長期欠席対応チームの設置
- けやき広場から適応指導の概念を廃し、ニーズに応じた教科指導、オンライン学習、発達課題の学校支援機能などの拠点に衣替え
- 「困り感」のある子どもにチェックテストを行い、個別対応を充実

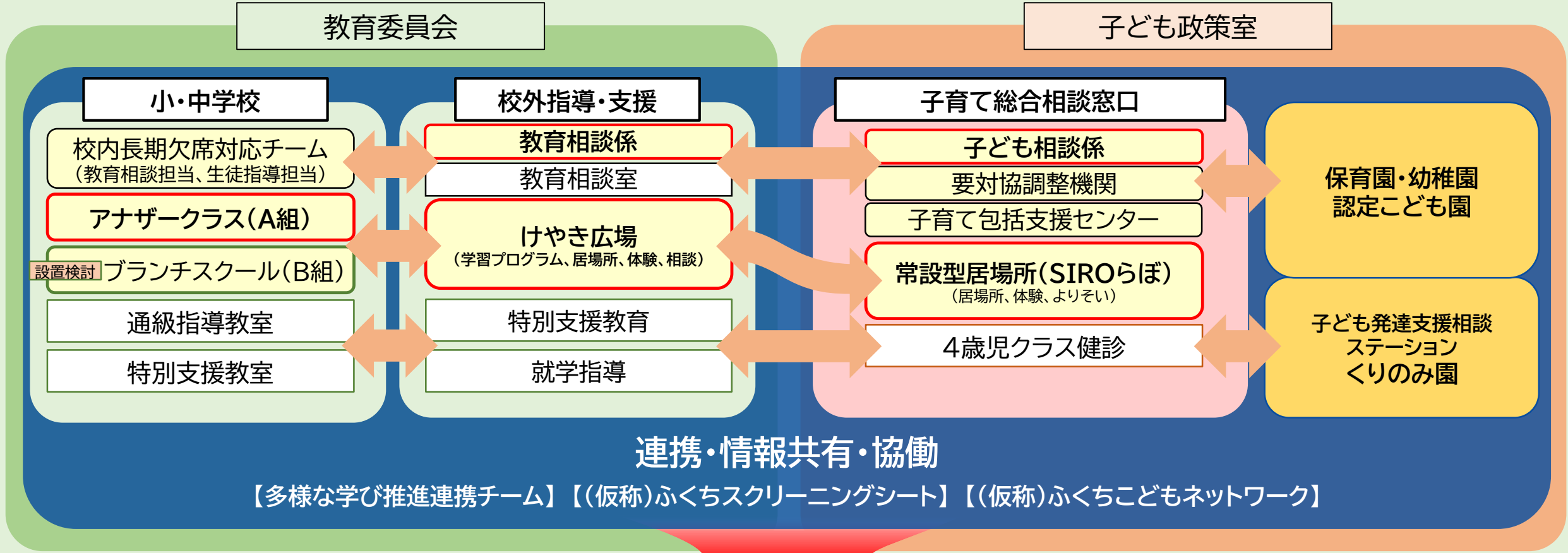
### 5 地域、支援者、保護者の理解を深める

- 不登校を否定・拒絶するのではなく、子どもたちのありのままを受け入れ、支えていく理解醸成のための講演会等の実施
- 不登校や引きこもりの状態にある子ども及び保護者向けの個別相談会の定期的な実施
- 不登校経験者や保護者からなる育みの会（親の会）の設置検討

### 6 支え手となるネットワークづくり

- 不登校や長期欠席、引きこもりの子どもに関わる団体等からなる「ふくち子どもネットワーク」の構築
- 京都府の脱引きこもり支援センターや早期支援特別班と連携した、義務教育終了後の実態把握とサポートのあり方の検討
- 市外の専門・支援機関等との継続的な連携態勢の構築

# 子どもが主役の【多様な学び】推進イメージ



## 令和5年度の取り組み

1 相談・対応力の充実強化、実態把握の深化

3 多様な学び、安心できる居場所の設置

5 支援者、保護者、地域の理解を深める

2 予防的視点での早期対応、早期連携

4 学校対応や教育支援のさらなる充実

6 支え手となるネットワークづくり

# I 相談・対応力の充実強化、実態把握の深化

\*赤字がR5新しく取り組む内容

※各機関での相談を経て学校以外の関わりが必要と判断される家庭の情報は、教育相談室か子ども政策室どちらかが、認知している事を目指す。

各機関で相談対応を実施

相談・報告

教育委員会  
学校

教育相談室

子育て総合  
相談窓口

①新規相談対応  
ケース

②単独で解決が  
できないケース

③注1) 様式5で  
上がってきた  
ケース

④その他、困難  
ケース

## 複数視点での情報共有 アセスメント、方向性の確認

### ■常時連携

教育相談室

多様な学び推進連携チーム

要対協調整機関

※共通の初回相談受付票を活用、入力内容も合わせる

### ■多様な学び相談担当者会議 (TT会議) (週1回程度)

・相談を受ける現場スタッフ(教育相談室、子ども政策室)との協議(アセスメント)の場

・左記のケースの情報共有と対応、方向性について協議し次の支援に繋いでいく

アウトリーチ等対応・実践・振り返り・変更

## 子どもの居場所

学 校

別室登校、放課後登校

アナザークラス (A組)  
ブランチスクール (B組)

けやき広場

常設型居場所 (SIROらぼ)

出向き型居場所

京都府、NPO等地域資源

家 庭

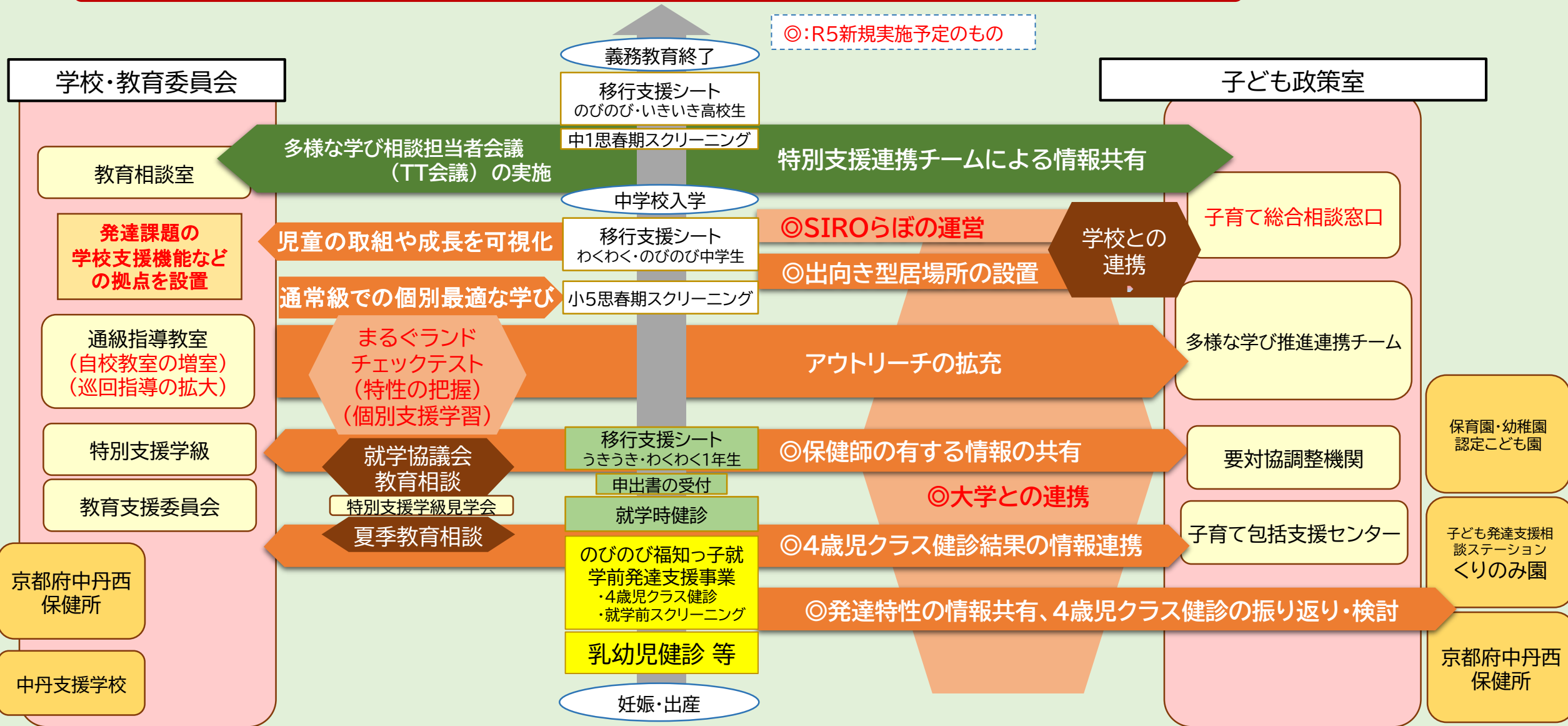
### ■大学との連携

・大学の専門的な知見を参考に、様々な活動に関する分析や手法を検討

注1) :学期毎に基準の欠席合計日数に達すると学校から市教委に提出される様式

## 2 予防的視点での早期対応・早期連携（発達支援）

発達課題の早期対応、早期連携により不登校等の二次障害を防ぐ



# 3 多様な学び、安心できる居場所

～ 学校へ行きにくい子どもたちが安心して過ごせる場所、相談ができ、寄り添いがある場所 ～

名称:SIROらぼ

場所: 福知堂ビル4階(末広町1丁目)

状況: 現在関わっている子どもを中心に不定期で活動実施。

新たに見学希望の場合も、保護者との事前面談を行い計画している。

現状では対応できていない子どもの思いや状況

■学校以外の居場所を求めている子ども

■学校以外の場で、共通の趣味が合う年の近い人との交流を求めている子ども

■学校やけやき広場には行けないけれど、人との関わりは求めている子ども

■家でエネルギーチャージはできたが、学校へ行くにはエネルギー不足で家にいることには飽きてきた子ども

子どもたちが必要としているのは

■活動の自由度が高く、知っている人がいてくれる場所

■慣れるまでは『絶対』がない場所

■『支援』ではない、対等な関係性が保てる場所

■『楽しい』『ホッとできた』がある場所

■焦らされない場所

■興味関心がくすぐられる場所

注意したいこと  
大切にしたいこと

■居場所ができたからといって、すぐにここに集まり活動ができるわけではない。ここに来る事にも時間をかけて、まずは個別対応の中で子どものペースで進めることが必要。

■大人の思惑(居場所にたくさんの子どもを来させよう、等)で居場所を運営しない。子どもたちが来たいと思える場として、自主的な思いを大切にしていく。

これらを踏まえて初めにできる居場所の姿は

## 常設型居場所を設置

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に小学生、中学生から</li> <li>当面は相談経路を経た家庭</li> <li>要連絡(スタートは個別対応で。徐々に少人数での活動へ移行)</li> </ul>
時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>月曜日～金曜日</li> <li>9時から17時頃まで</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの思いを尊重する過ごし方。</li> <li>数人集まれば、一緒に活動できることを考える。</li> <li>集まる子どもたちの人数によっては、移設や増設を検討。</li> </ul>
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>子どもスタッフ2名(子どもの思いに寄り添える人材)</b></li> <li>子どもが慣れるまでは、繋いだ相談員と一緒に活動、徐々に子ども担当に引き継いでいく。</li> </ul>
設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル機材(テレワーク端末、Wi-Fi端末、プロジェクター、スピーカー等)</li> <li>子どもと一緒に活動できる道具(卓球、ボードゲーム、カードゲーム、楽器、ボール等)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所は、福知山駅周辺の貸室などを検討</li> <li>月1回不登校に関する個別相談会を開催(「親の会」への発展を視野に)</li> <li>大学との連携、協力体制を構築。</li> </ul>

数年間実施していく中でこの居場所の役割としてイメージすること

■人と関わる楽しさを経験

■じっくり話を聴いて、受け止めてもらえる経験

■『できた』『できなかった』を安心して経験

■地域の人との繋がりから、多様な学び、経験をする

■自己選択、自己決定した中で行動し次のエネルギーに変化させていく

■次の目標が見つかり、次のステップへ向かって行く

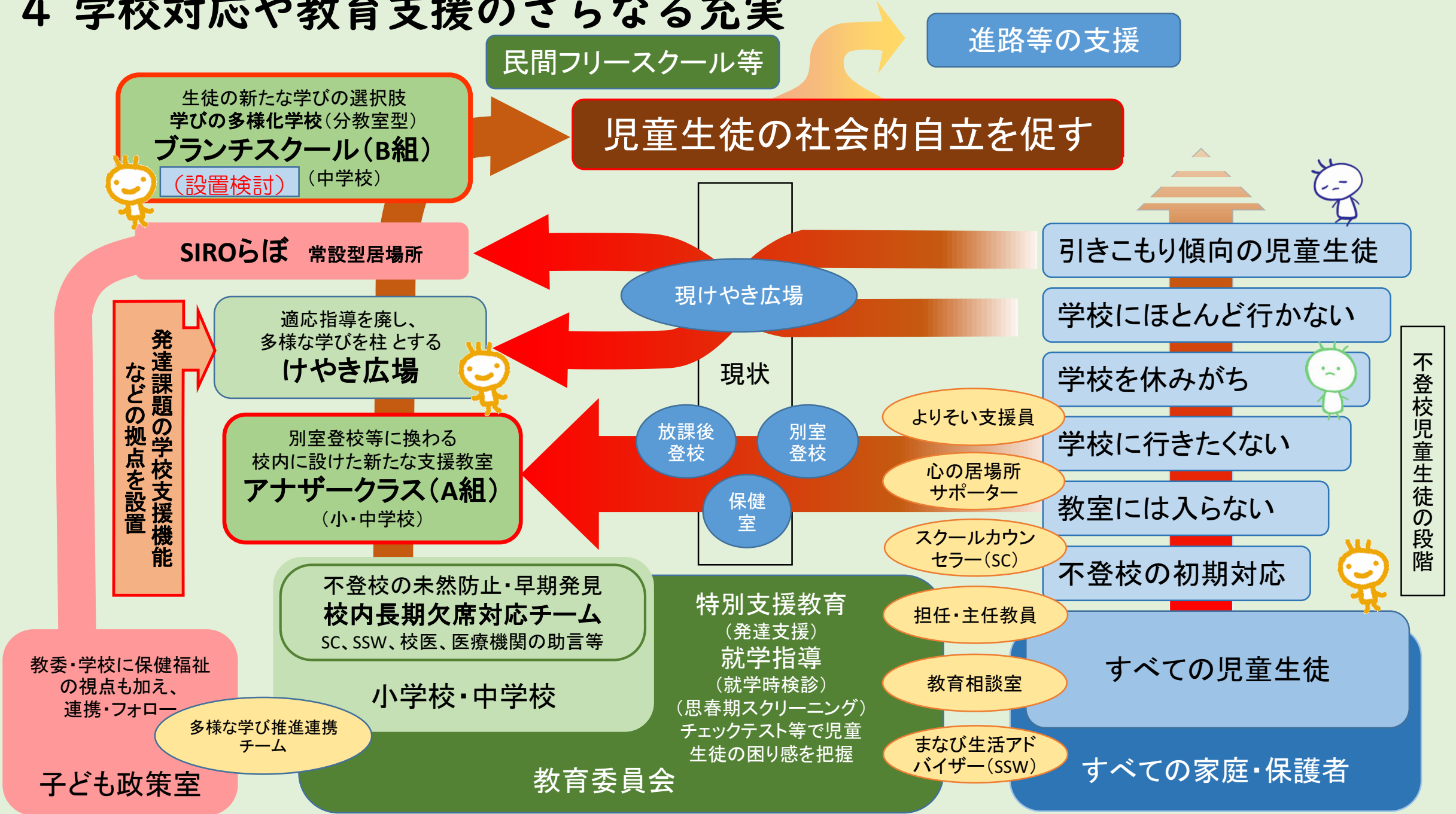
中長期的な見通しの中で

社会的自立に向け、学校以外で多様な学びを通し自立の力をつける場所、またそのための橋渡しの役割を果たす場所

## SIROらぼの様子



# 4 学校対応や教育支援のさらなる充実

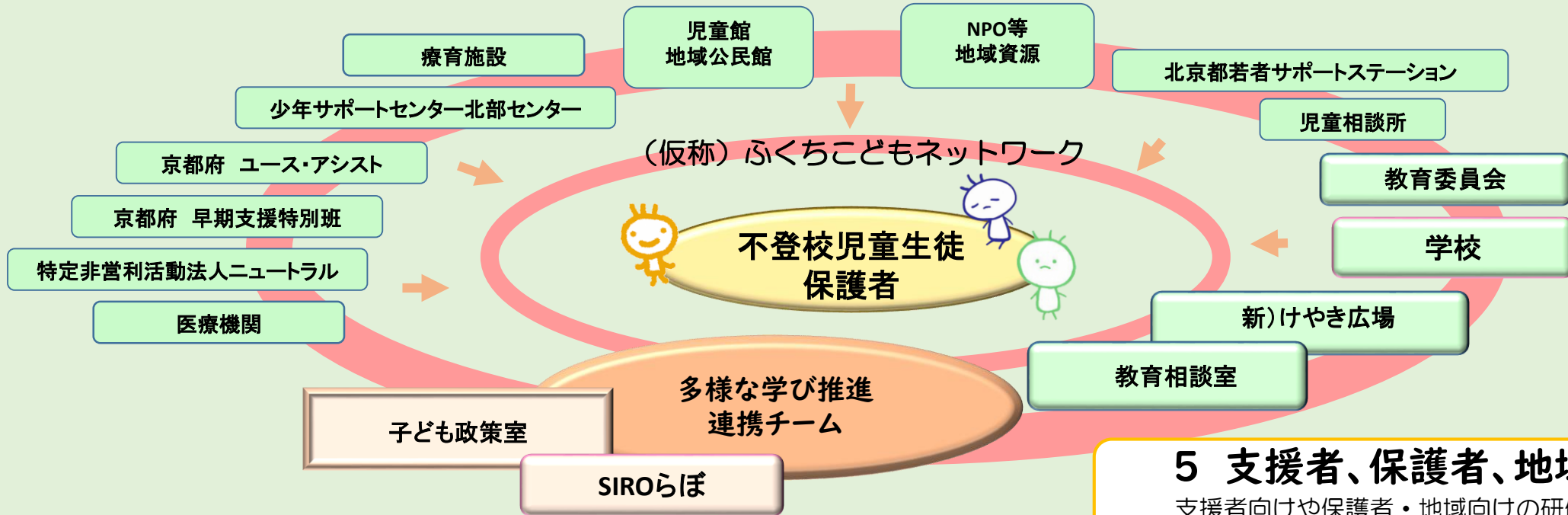


# 6 支え手となるネットワークづくり



## 仮称)ふくちこどもネットワーク

登校渋り、不登校等さまざまな境遇にある子どもが、自分に合った『場』を見つけ、自分らしさを大切にしながらその時々合った多様なまなびを通して、自信を持って歩いていけるよう様々な手法や機関による具体的対応を確立し、有機的な地域ネットワークを構築していく。

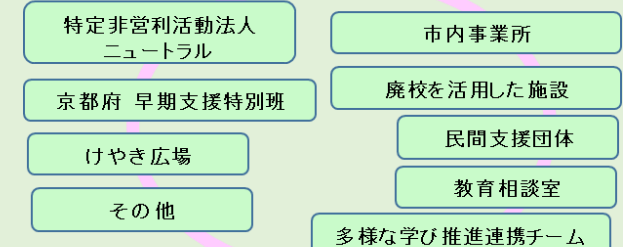


## 5 支援者、保護者、地域を深める

支援者向けや保護者・地域向けの研修会や講演会を開催

例えば・・・

多様な学び（社会経験）の場の開拓



### ■ 目指すこと ■

実際に子どもに関わっている関係機関・諸団体が、関わっている子どもたちの現状や地域課題について気兼ねなく情報交換し、各団体がそれぞれの強みを生かしながら実現可能な対応策について模索し、必要に応じて連携し、地域の対応力を高めていく

### ■ 期待すること ■

地域で不登校対策に理解を示し、活動・協力する団体の発掘や連携を行う



# 福知山市 多様な学びの選択肢

**SIROらぼ**  
アウトリーチでつな  
がる子どもたちが  
まず一步踏み出せ  
る場所

(設置検討)  
**ブランチスクール**  
特別カリキュラムによる特例校  
自分で選ぶ学びの手法



**アナザー  
クラス**  
別室登校、放課後登校に  
代わる校内支援教室

**小学校  
中学校**

**Room-k**  
オンライン支援教室  
メタバースと家で

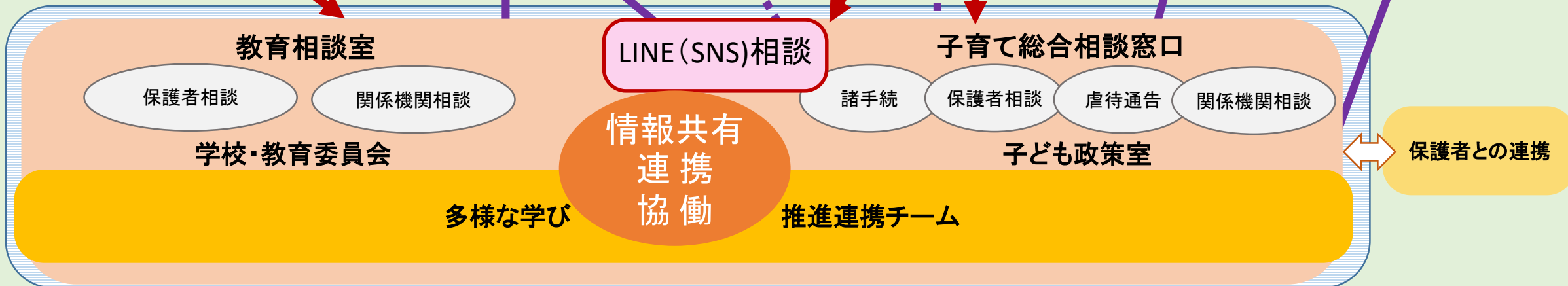
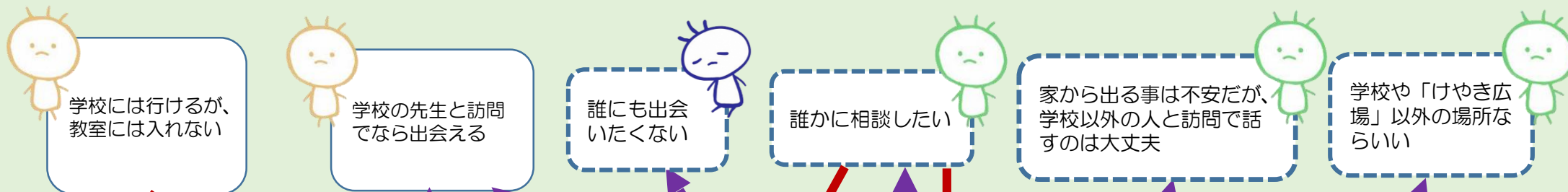
**けやき広場**  
自分ペースの学びと体験  
学校でもない、家庭でもない学びの場  
で気持ちによりそう

**児童館等**  
既存施設も出向き型  
で支援の場とする

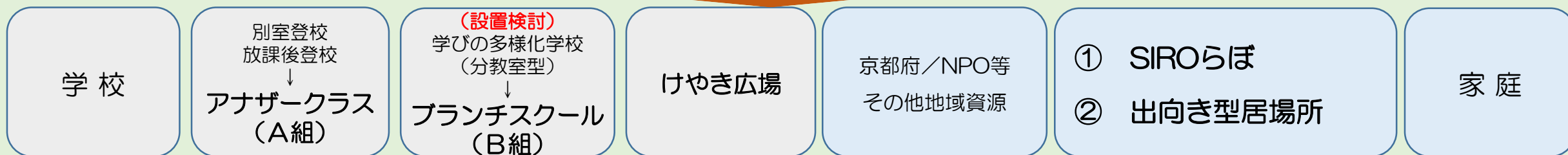
まなび生活アドバイザー(SSW)

# 子どもが主役の【多様な学び】推進の方向性

子どもの思い



子どもの思いに合った学びや居場所を一緒に考え、子どもが選ぶ



【矢印の意図】 → 子ども発信    → 支援者からのアウトリーチ    点線矢印：更に強化が必要なアプローチ